

起こりうる災害の現状を認識しよう。

地震編

佐渡島北方沖と秋田県沖の地震空白域及び庄内平野東縁断層帯は、私たち市民にとって気掛かりな存在です。

地震の危険度

近年、国内では大規模地震災害が多発し、多くの財産や人命が奪われる事態が発生しています。山形県、ひいては酒田市においても、佐渡島北方沖、秋田県沖の日本海における地震空白域や、庄内平野東縁部の活断層を震源とする強い地震の発生が予想されています。

その中でも、庄内平野東縁断層は、遊佐町から鶴岡市（藤島）まで38kmに及ぶ6本の活断層からなる断層帯で、特に観音寺断層や通越断層は、酒田市街地に近く、大規模な直下型地震を発生させる可能性があります。

また、地震が発生した場合には、酒田市の

ほとんどが地盤の軟弱な沖積平野上に位置しているということもあり、その被害の拡大が懸念されています。

大規模な地震災害が発生した場合には、行政の力だけでは対応に限界があり、市民の皆さんと力を合わせて災害に対処していかねばなりません。

そこで、酒田市周辺で起こる可能性のある地震災害や津波災害について認識し、日頃の防災活動に生かしましょう。

日本海沿岸部で起こる可能性のある地震

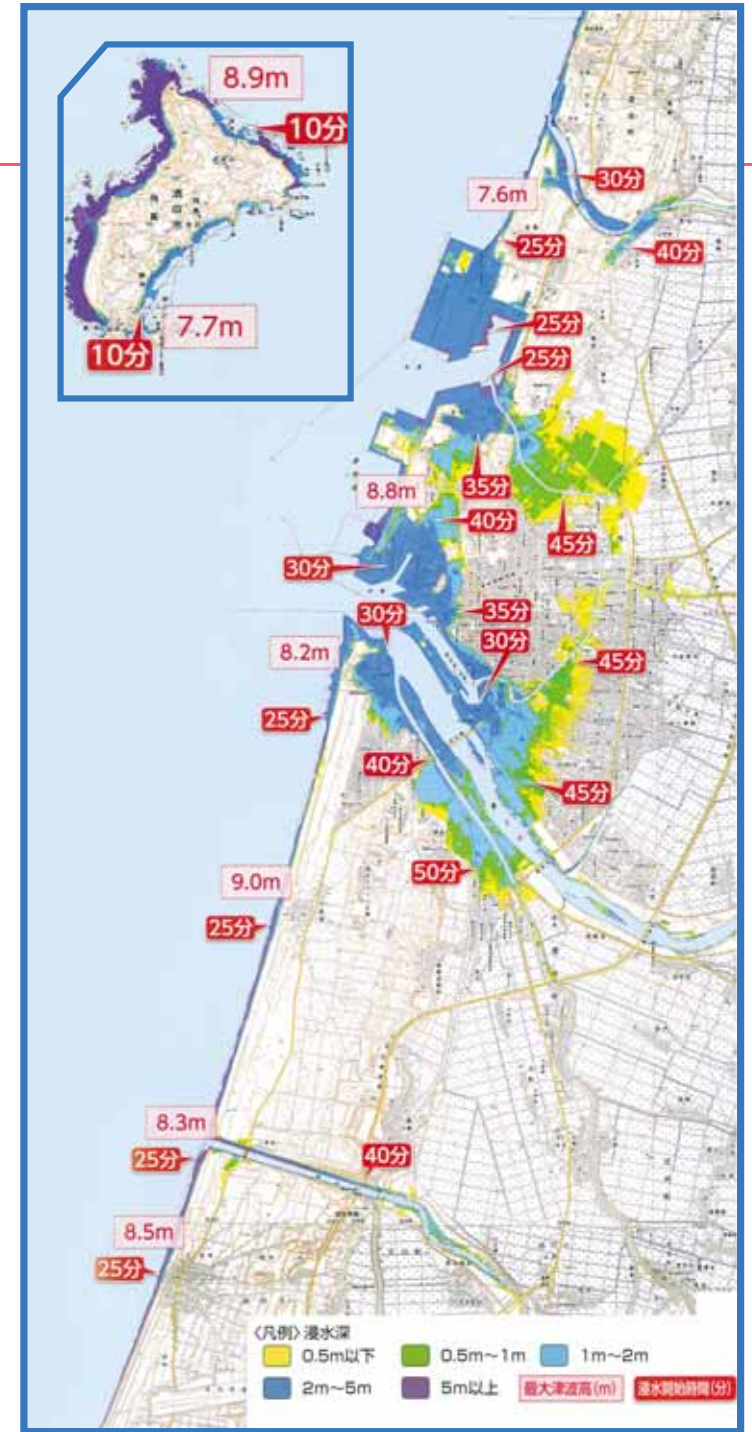
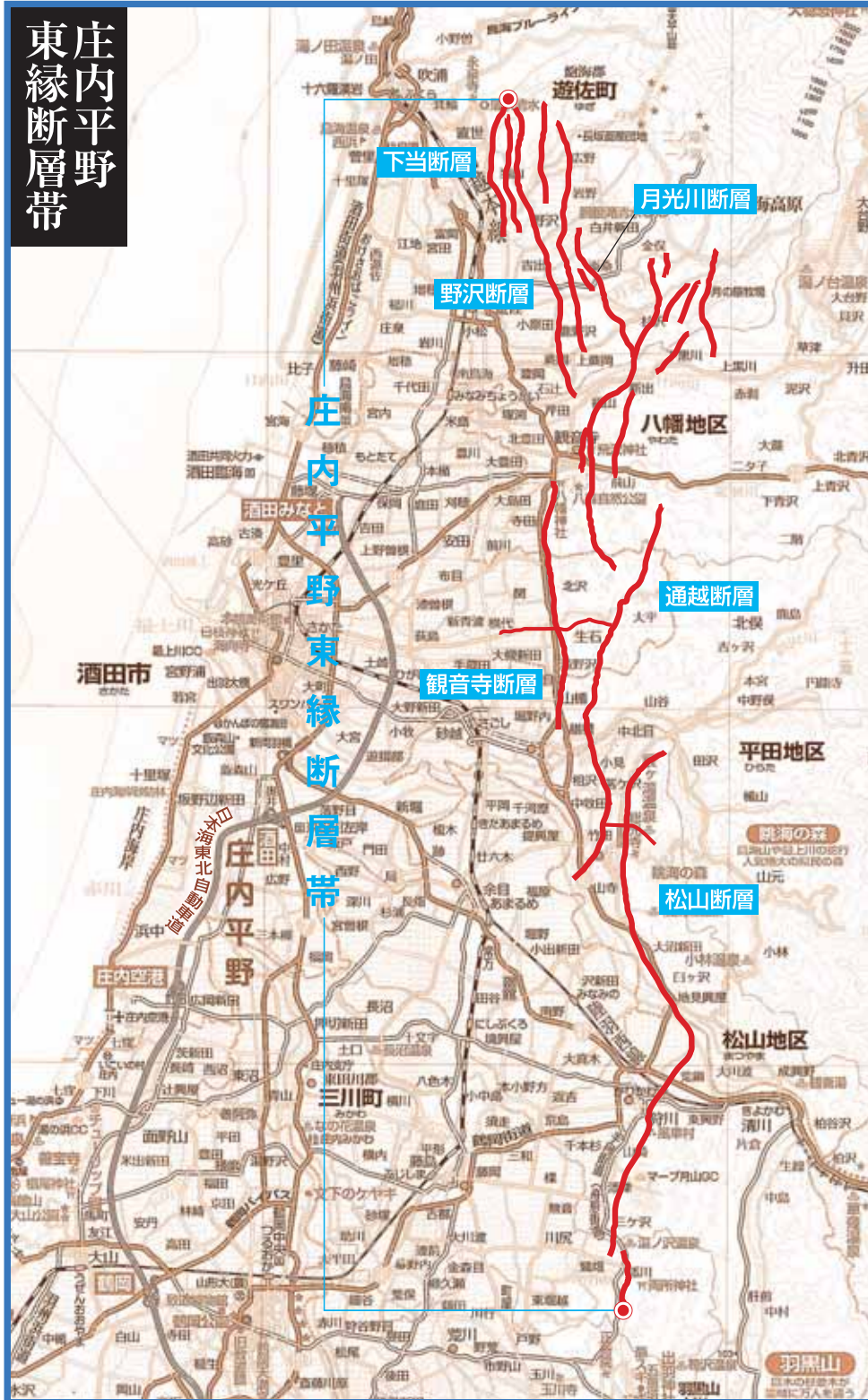
国の地震調査研究推進本部では、平成15年6月に東北の日本海沿岸（日本海東縁部）地域にある地震空白域についてその評価を公表しました。

その中で、山形県沿岸に関係してくる地震空白域として佐渡島北方沖と秋田県沖の2か所が評価されています。それによると、佐渡島北方沖で発生する可能性のある地震の規模はM7.8程度、発生する確率は最大6%。秋田県沖で発生する可能性のある地震の規模はM7.5程度、発生する可能性は最大3%程度以下となっており、酒田市における最大震度は6弱程度と想定されています。

活断層で発生する可能性のある地震

活断層は、強い地震活動をともなって数千年単位で繰り返す地殻変動です。国の地震調査研究推進本部では、全国110の主要な活断層の調査研究を行いその評価を行っています。山形県内にも山形盆地・新庄盆地・長井盆地西縁・庄内平野東縁の4か所の活断層があり、そのすべての評価が終了しています。

特に、庄内平野東縁断層帯は酒田市街地に近く、発生する可能性のある地震の規模はM7.5程度、発生する可能性のある確率は最大6%で、国内では発生確率の高い活断層として評価されており、酒田市における最大震度は6強程度と想定されています。



津波の浸水想定について

酒田市における新津波浸水域予測図は、平成7年度に策定された「山形県津波対策基礎調査」に基づき、佐渡島北方沖で発生する可能性があるM8.5の地震による津波を想定しています。津波シミュレーションは、最大クラスの津波が最悪の条件下（朔望平均満潮位、海岸堤防等の破壊）で発生することを前提で行われました。

この結果、海域における最大津波高は7.6m～9.0m、浸水開始時間は地震発生から約25分（飛島は約10分）であることが明らかになり、津波の河川遡上による越流で浸水域が拡大しました。また、以前はわからなかった津波の浸水深が5段階に色分けで表示されています。

但し、津波浸水域予測図は、あくまでも一つの目安に過ぎず、過信しないで避難する必要があります。

地震の空白地域

